

「日本橋美人」が続々

「粋な女性」をうたい文句に、東京・日本橋で働く女性たちが開発に携わった統一ブランド「日本橋美人」が広がりを見せている。健康や本物感を重視した商品は食品からホテルの宿泊プランまで多彩。消費のカギを握る女性の意見が聞けるとあって、試作品を持ち込む地元企業も後を絶たない。銀座、丸の内に流れがちな女性たちを日本橋に呼び戻せるか。

日本橋の企業二千五社の女性社員でつくる「日本橋OLクラブ」が提唱したプロジェクトの環境。教養や品格も備えた「真の粋な女性」を「日本橋美人」と位置づけ、「心も身体も美しく」をテーマに、会員が試作段階からアドバイス。老舗企業も加わるプロジェクト事務局が認定する。

地元企業OL、商品開発アドバイス



「日本橋OLクラブ」の会合には試作品やアイデアが次々と持ち込まれる。東京都中央区で

昨秋、老舗のりや飲食店のランチメニュー、老舗菓子店「栄太楼」の本舗の「こしあん」を使ったホテルの宿泊プランなど「日本橋美人あんぱん」を商品化して始動。現在や「日本橋美人豆乳パ」は食関連のほか、着付け講座や和装品まで約四十点に広がった。中央区日本橋室町のパン店「ボンクール」は、改良しては同クラブに三品に入る。のパンの中で人気上位

あんパン、ゆかた…現在40点



OLの意見を基に改良を重ね、完成までに3カ月かかった「日本橋美人あんぱん」。中央区日本橋で



持ち込み、発売までに三カ月かかった。チーフの山田靖史さん(30)は「カオリー計算も必要で、女性の要求は細かく厳しい」としつつも、「野菜など材料の使い方は勉強になった。『日本橋美人』以外の商品にもアドバイスが生きている」と話す。

日本橋で商業デザイン・企画制作会社を経営する山田晃子さんは「老舗が残る日本橋は『本物』がある町。そのイメージを生かしつつ、きれいになりたい願望を持つ女性を引きつけられれば。最終的には『日本橋美人』をブランドとして定着させたい」と意気込んでいる。

八十年以上の歴史を持つ繊維卸「堀井」は今シーズン、同クラブ会員が選定した新作ゆかた十五柄を「日本橋美人ゆかた」として展開する。堀井定雄社長は「日本橋だからオーソドックスな反物が選ばれるかと思ったが、色柄はさまざま。若い女性ならではの感性に期待したい」。